

農村高齢化と地域生活構造の変動

Ageing in Rural Areas and Changes of Community Life Structure

高野和良*

Takano, Kazuyoshi

Since 1980, ageing of people and decrease of children, and reduce of family members have been causing numbers of problems in rural areas. Above all, a study is demanded what measures should be taken to support the life of ageing people. In this paper, I introduced the actual activities of ageing people, giving an example of a food processing shop "Fureai House" in Shibukinaka-ku, Nagato City, Yamaguchi Prefecture, and I investigated how the community managements should be.

First, in order to clarify the feature of the rural areas in western Japan, I re-analyzed the distributions of household structures by area blocks and new classification of populated and depopulated areas using data on the basic survey for the nation life. This revealed that numbers of family members are reducing not equally throughout the country but more extremely in rural (depopulated) areas in western Japan. Reduce of family members brought by increase of single households and also households of aged couples weaken the community functions and make the life unstable. I gave an instance of "Fureai House" activities and showed how they are coping with this problem.

"Fureai House" is run by members of units of married couples, and through participation of women, it affects traditional community and organization management method based on households. Moreover, cooperating helps the members to understand each other and to share their private problems such as care for their aged parents. I pointed out that, as an unexpected result of sales activities, the community is re-organized and they can successfully get a sense of security through the farm work united to their actual life.

1. はじめに

農村では1980年代以降に少子高齢化と家族の小規模化が急速に進行し、様々な問題が生じつつある。そのため、そこで生活する人々、なかでも厳しい条件におかれている高齢者にとって安心感のある生活を保証するための具体的な方法の検討が求められている。このことは、農村高齢者の生活の質をより望ましい方向に導くための条件の確認作業といいかえてもよい。

そこで、山口県長門市渋木における加工販売施設の事例を通して高齢者の活動実態を紹介し、農村において増加しつつある高齢夫婦のみ世帯の生活、集落運営などのあり方を検討することとした。

2. 家族の小規模化と地域性

まず、全般的な農村高齢化のなかで西日本農村が占める位置を明らかにするために、高齢者を含む世帯構造の分布を、過疎および非過疎の区分を新たに設けたうえで、国民生活基礎調査の地域ブロックごとに再集計を試みた。下表に示した通り、全国でみると高齢者

の半数弱は、単独世帯(15.2%)と夫婦のみ世帯(25.2%)で生活していることがわかる。小世帯化が常態となりつつあるといえよう。さらに、単独世帯を比較すると東北過疎郡部(8.7%)と南九州過疎郡部(21.8%)との間には、大きな差が認められる。このように、小家族化は全国一律に進行しているのではなく、西日本農村(過疎地域)で深刻化していることが明らかとなった。

一人暮らしだけでなく高齢夫婦のみ世帯の増加にともなう家族の小規模化は、集落機能の衰弱をもたらし生活を不安定なものに導く。そうした状況へのひとつの対応事例として、山口県における加工販売施設の活動実態を紹介する。

3. 安心感ある生活再編の事例

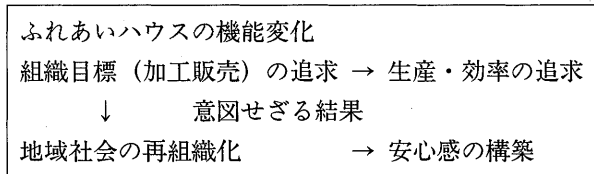
杵搗き餅と押寿司の加工販売を行う「ふれあいハウス」の事業内容は、とりたてて珍しいものでないが、10世帯20人の夫婦を単位とする会員制によって運営されており、主として女性高齢者の参画を通じて、世帯

* 山口県立大学大学院 健康福祉学研究科健康福祉学専攻

60歳以上のいる世帯数、世帯構造7分類、東北・中国・南九州

			単独世帯	核家族世帯					その他の世帯	総計
				総数	夫婦のみ世帯	夫婦と未婚の子のみの世帯	片親と未婚の子のみの世帯	三世帯世帯		
02東北	非過疎地域	市部	11.6%	35.9%	21.8%	9.8%	4.3%	39.6%	12.9%	100.0%
		郡部	8.1%	25.5%	14.1%	8.0%	3.4%	52.6%	13.8%	100.0%
	非過疎地域 計		10.5%	32.9%	19.6%	9.3%	4.0%	43.4%	13.2%	100.0%
	過疎地域	市部	9.4%	28.2%	21.3%	5.2%	1.7%	45.7%	16.6%	100.0%
郡部		8.7%	25.8%	15.2%	7.1%	3.5%	49.5%	16.0%	100.0%	
過疎地域 計			8.7%	26.0%	15.7%	6.9%	3.4%	49.2%	16.1%	100.0%
02東北 計			10.2%	31.5%	18.8%	8.8%	3.9%	44.5%	13.8%	100.0%
09中国	非過疎地域	市部	18.1%	44.0%	31.7%	8.5%	3.8%	26.7%	11.2%	100.0%
		郡部	13.8%	31.7%	20.8%	7.8%	3.1%	41.1%	13.4%	100.0%
	非過疎地域 計		17.3%	41.7%	29.7%	8.4%	3.6%	29.4%	11.6%	100.0%
	過疎地域	市部	9.6%	37.4%	26.2%	9.3%	1.9%	39.2%	13.8%	100.0%
郡部		16.1%	35.9%	27.4%	5.7%	2.8%	31.5%	16.6%	100.0%	
過疎地域 計			15.6%	36.0%	27.3%	6.0%	2.7%	32.1%	16.3%	100.0%
09中国 計			17.0%	40.6%	29.2%	7.9%	3.5%	29.9%	12.5%	100.0%
12南九州	非過疎地域	市部	21.6%	46.9%	29.6%	11.5%	5.8%	20.6%	10.8%	100.0%
		郡部	16.2%	37.9%	22.9%	10.3%	4.7%	32.9%	13.0%	100.0%
	非過疎地域 計		20.0%	44.3%	27.6%	11.2%	5.5%	24.2%	11.5%	100.0%
	過疎地域	市部	25.6%	47.9%	34.7%	9.0%	4.1%	14.3%	12.2%	100.0%
郡部		21.8%	46.1%	33.7%	7.5%	4.9%	20.5%	11.6%	100.0%	
過疎地域 計			22.6%	46.4%	33.9%	7.8%	4.8%	19.3%	11.7%	100.0%
12南九州 計			20.8%	44.9%	29.6%	10.1%	5.3%	22.7%	11.5%	100.0%
総計			15.2%	41.9%	25.2%	11.8%	5.0%	31.7%	11.1%	100.0%

を単位とする従来型の地域運営や組織運営手法に影響を与えている。また、共同作業が意疎疎通の場となり各会員の高齢者介護などの生活課題が共有化され、課題解決へ向けての動機づけとなっている。加工販売活動の意図せざる結果として、従来の地域集団や生産組織が成し得なかった地域の再組織化が図られつつあり、生活と一体となった農業を通じて生活の安心感の形成を実現しつつある。



農村高齢者の場合、弱体化しつつあるとはいえ、農業は依然として生活のなかで大きな意味をもっており、生活と一体となった状態にある。この点で、都市高齢者は不安定な状況にある。日本社会では高齢者にとって働くことの経済的意味合いが減少し、働き続けることが幸福であるという方向への変化が認められる。働

くことが生きがいであるといった変化こそが、現代農村社会の高齢者の生活を支えてきたのである。一方、都市高齢者の場合、日常生活のなかに社会的役割が位置づけられにくく、不安定な状況におかれている。都市高齢者に生きがい強調される所以である。農村型生活様式は、生きがい感を総合的に満たすための条件も有している可能性があり、こうした点からも活動を評価することができる。

4. 農山高齢化と生活の質

最後に、活動の特徴をまとめておこう。第一に、活動が夫婦単位の参加によって実現されていることである。世帯単位ではなく夫婦単位の個人で会員組織を立ち上げており、このことが世帯を単位とする従来型の地域運営や組織運営手法に影響を及ぼしつつある。第二に、掛け声にとどまりがちな農村社会における男女共同参画のあり方の、ひとつのモデルとなっている。夫婦単位による販売加工への取り組みによって女性が間接的ながらも地域運営に無理なく参加している。第

三に経済効率のみを考えた場合、決して大きな収入に結びついているわけではないが、自分たちの得意とする仕事、すなわち農業を生活のレベルに引きつけて展開し、実感できる生活の安心感を形成することに成功している。農村の高齢者であるからこそ実現できた活動である。

1990年代以降の過疎化の再進行は、さらなる家族の小規模化と、集落の衰退をもたらしつつある。世帯数の減少と一人暮らし、夫婦のみ世帯の増加といった家族構造の変質に対応した活動の試みは、過疎社会におけるひとつの展望を示すものといえよう。